柔軟でしなやかな泌尿器科学講座

福島県立医科大学臨床研究教育推進部 部長 兼 准教授
栗田　宜明

50周年を迎えまして、誠におめでとうございます。小職は、臨床研究教育推進部の責任者を務めさせて頂いております。ルーツは腎臓内科であるため、腎臓と臨床研究を通じて貴講座とのご縁を頂いております。

東北の地で働いて５年目を迎えた現在、２つの歴史を学ばせていただきました。１つ目は、東北地方の腎不全医療の大部分を泌尿器科医が担っておられるルーツは、東北大学の武藤教授による人工透析医療にあったことです。２つ目は、母校の泌尿器科初代教授土肥慶蔵先生のルーツをさらに辿ると、実は外科医であったことです。東北地方と母校の泌尿器科の歴史を知ることになり、つながりのありがたみを感じずにはいられません。

小職は、小島祥敬教授と同じく箱根の山を越えて福島に参りました。質の高い臨床研究論文を若手医師が発信するためのお手伝いをさせて頂いておりまして、研究計画のデザインや統計ハンズオン実習などのブレンド学習を提供させて頂いております（詳細はhttps://direct.fmu.ac.jp/）。

ロボット支援下前立腺摘出術において、有棘性縫合糸と非有棘性縫合糸が術後の排尿機能や組織に与える影響の違いを評価した臨床研究に参画させていただきました。成果としてSurgical Endoscopy誌へ論文発信がご一緒できたことをありがたく感じております（Haga N, Kurita N, Kojima Y, *et al*. Surgical Endoscopy 2018; 32: 145-153）。

イノベーションは、既存の知恵の組み合わせによる創意工夫と言われて久しいにもかかわらず、伝統を重んじるあまり傾いてしまった企業が今でも後を絶たないようです。小職のような新参者が突拍子もないことを申し出て、研究に柔軟に取り入れていただける貴講座は、大変柔軟でしなやかな組織であると感じております。貴講座の良き伝統に加えて、小島教授が新しい風を吹き込み、ますます発展されますことを祈念します。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。